



グローバルでの  
躍進をめざして  
人財を育み  
組織を  
活性化する

代表取締役社長

杉原功一

## 2016年度の総括

### 「VISION2020」実現への確かな手応え

特集①へ

2016年度は「VISION2020 ～地球環境とお客様への貢献～」の実現に向けた新中期経営計画のスタートの年でもあり、新製品の開発や国内外への拡販、原価低減活動などにグループの総力を挙げて取り組んだ結果「トライボロジーをコアに、軸受をはじめとした環境に貢献する製品を迅速に生み出し、グローバルにお客様へお届けする」ことは現実のものになりつつあると手応えを感じています。

VISION2020に向けた取り組みの内、今回は「VISIONを実現する人財づくり」を中心にお話したいと思います。



中期経営方針 2016-2018年度

## VISIONを実現する人財

### 『第一の矢』人財力向上に向けた体系づくり

特集②へ

一昨年度より「燃える職場・社員総活躍プロジェクト」をスタートし、「教え・教えられる風土の醸成」のスローガンのもと『三本の矢』を策定し、まずは『第一の矢』である「人財力向上に向けた体系づくり」に着手しました。

大豊グループにはQC活動やTQM活動に取り組んできた歴史があり、それが現在の礎になっているといっても過言ではありません。当グループが持続的な成長を続けていくためにも、人にスポットをあてて組織を活性化することが重要だと考えています。

技能系社員を対象とした「元気工場プロジェクト」は、改善する喜びを社員に実感してもらうことで個々のモチベーションを高め、職場の一体感を醸成することを目的としています。

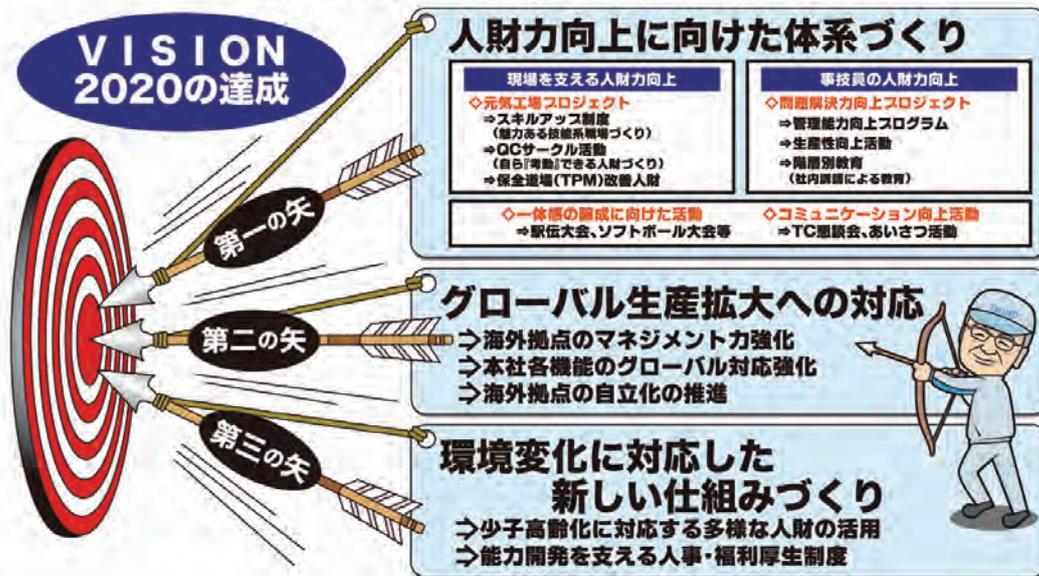
当グループは平均年齢が若く、仕事を教える世代が少ないため、人財育成においては危機感を抱いて

おりました。そうした思いもあって2017年度は「スキルアップ制度」をスタートしました。この制度はカンやコツといった「暗黙知」を「形式知」にすることによって技術・技能を正確に伝授していく仕組みです。その過程においては多くの気付きがあり、教える側にとってもよい刺激を得ることができました。

事技系社員にむけては「管理能力向上プログラム」をスタートし、問題解決能力の向上やマネジメント改善などによる生産性向上を念頭において活動しています。課題をピックアップし、優先順位をつけ、その解決策を立案・実践して、反省するという一連のプロセスの中で、特にコミュニケーションを重視しています。

「元気工場プロジェクト」と「管理能力向上プログラム」。この2つの取り組みを両輪に、人財を育み、組織の活性化を進めてまいります。

# 『燃える職場・社員総活躍プロジェクト』 ～教え、教えられる風土の醸成～



## 『第二の矢』グローバル生産拡大への対応

当グループにとって海外市場での拡販が今後ますます重要になる中で、特に北米、欧州、中国などの戦略的に重要な海外拠点は、生産・販売を担うプロフィットセンターとしての一層のレベルアップが必要不可欠です。そのためには大豊工業からのサポートもより強化せねばなりません。2017年1月には「大豊ワンチーム」として、品質、原価、製造準備、保全、生産管理といった各機能の横串連携を狙った新体制を導入しました。6月からは本社機能軸による横串活動の深化をねらい、グローバル営業力の強化に向けた体系づくりを推進しています。

また、海外拠点のマネジメント強化策の一環として、赴任者教育やローカル人財力の向上に取り組むとともに、海外拠点を強力に支援できる“一人称で仕事ができる”タフな人財の育成にも取り組んでおります。

## 『第三の矢』環境変化に対応した新しい仕組みづくり

「働き方改革」が注目される中、「少子高齢化に対応する多様な人財の活用」や「能力開発を支える人事・福利厚生制度」に取り組んでいます。

かねてより育児休業制度や社内託児所(T-Kids)などの福利厚生面を充実させてきましたが、社員のニーズが多様化してきたため、ニーズに合わせた福利厚生を選択できるように今後カフェテリア方式を採用する予定です。

2017年3月には厚生労働省より「第1回 働きやすく生産性の高い企業・職場表彰」の優秀賞を受賞しました。これは生産性の向上と雇用確保・雇用環境の改善を両立させた企業として評価されたものであり、これからも企業成長の源泉である社員を大切に、より魅力的な企業風土の醸成に取り組んでまいります。

	本社	細谷	篠原	幸海	九州	Gr会社	海外
本社機能部署	安推・CSR・総務人事		◇安全・環境・総務人事機能				
	品質保証部		◇品質機能				
	経理部		◇原価管理機能				
	素革/第1生技		◇製準機能				
	第2生技		◇保全機能				
	生産管理部		◇生管機能				

機能軸(方針展開・人材育成・リソース配分)

横串活動イメージ図

このような取り組みの成果もあらわれ、2016年度の売上高は1,089億53百万円となり、過去最高となりました。利益面では営業利益63億57百万円、経常利益62億65百万円、当期純利益44億54百万円となり、経常利益は売上増や合理化努力による利益増がありましたが、円高や新製品の立上げによる労務費、経費増などの影響で前期比で減益となったものの、当期純利益は過去最高を達成することができました。

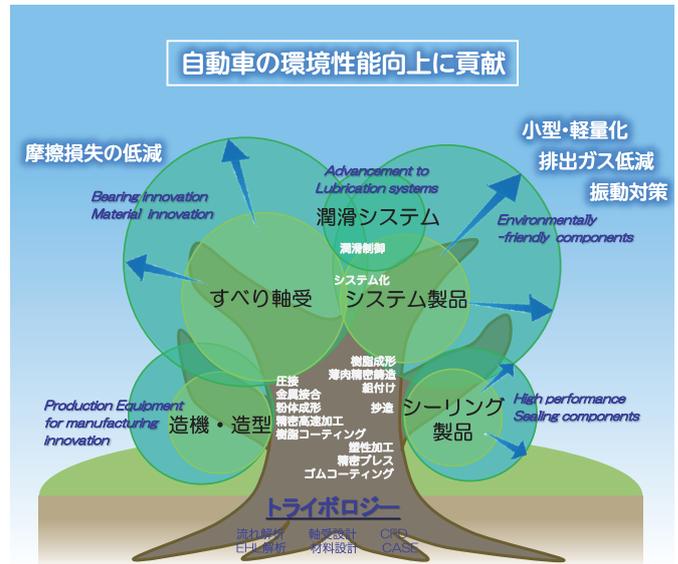
## 持続可能な社会とその発展に貢献

### 環境対応に関する取り組みについて

地球環境への貢献については、HV車、PHV車、EV車、FCV車などの普及が急速に進む中で、当グループのコア技術をもって自動車業界の電動化に対応すべく新領域の開拓に総力を挙げて取り組んでおります。

また、高効率で低燃費なエンジンの開発においても、軸受製品における次世代加工ラインや高性能材料の実証ライン導入を進めています。軸受製品以外にも「バキュームポンプ」などの環境対応製品の引き合いが増加しており、環境・社会に貢献する製品を迅速に生み出し、グローバルに供給してまいります。

そして生産活動における環境負荷の軽減にもさらに注力し、「第6次大豊環境取り組みプラン」の達成にも取り組んでまいります。



トライボロジーを核とした事業領域の拡大と環境貢献

### 大豊グループのCSRについて

特集③へ

当グループのコア技術であるトライボロジーの研究開発支援を目的とした「大豊工業トライボロジー研究財団(TTRF)」においても、国際シンポジウムの開催や若手トライボロジストの助成などを通じて、引き続きトライボロジー分野の研究促進に貢献してまいります。

また、豊田市内の小中学生を対象にモノづくりの楽しさを教える「豊田少年少女発明クラブ」の支援と



して、社員の講師派遣や当社施設の提供など地域社会の発展にも継続して貢献しています。

これらの取り組みの起点となっている当グループのCSR方針は、社是「信頼の大豊」に基づくものであり、コンプライアンスや社会貢献、さらには事業継続といった、さまざまな社会的責任に着実に応えていきたいと考えています。さらにトライボロジーを核とした製品によって、社会的価値を持続的に生み出していくことが私たちの使命と考えております。

同時に経営の健全性や透明性を高め、誠実な事業活動を通じて、あらゆるステークホルダーの皆様からの信頼を築いていく所存です。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。